

I 生活場面「地域やまちで暮らす」

【1】第4次大阪府障がい者計画(後期計画)における整理

<めざすべき姿>

障がい者が地域で快適に暮らし活動している

【今後の主な課題】

- 長期にわたり入所施設や精神科病院に入所・入院している障がい者の状況把握と地域生活への移行に向けた働きかけ
- 地域での暮らしを支える支援体制の強化(住まいの場、福祉サービスの提供や相談支援の体制、地域ネットワーク等)
- 地域住民の理解促進

【個別分野ごとの施策の方向性】

(1)入所施設や精神科病院から退所・退院して暮らす

- ①入所施設からの地域生活への移行
- ②精神科病院からの地域生活への移行

(2)入所施設の今後の機能のあり方

(3)地域で暮らし続ける

- ①グループホームなど住まいの確保
- ②必要な福祉サービスの確保
- ③相談支援体制の強化
- ④自立支援協議会の機能強化
- ⑤地域福祉の視点
- ⑥障がい者に対する住民の理解
- ⑦福祉サービスを担う人材の確保

(4)まちで快適に生活できる

【2】平成28年度障がい者の生活ニーズ実態調査の分析

表1 今の暮らし(施設・病院)×希望する暮らし(地域)

		希望する暮らし						計
		一人で暮らす	親や兄弟と暮らす	配偶者等と暮らす	友達・グループで暮らす	入所施設で暮らす	病院で暮らす	
今の暮らし	施設	13	13	19	7	81	0	133
	病院	2	3	11	0	1	5	22
	計	15	16	30	7	82	5	155

表2 今の暮らし(施設・病院)×希望する暮らし(地域)×必要なもの(複数回答可)

		希望する暮らしに必要なもの							計
		入居できるGH	生活しやすい住宅	希望する暮らしの練習場所	日常生活の介助や支援の充実	財産管理等の支援制度	交流の場や相談の場	周囲の障がい理解や配慮	
今の暮らし	施設	6	3	5	24	6	9	11	64
	病院	1	2	2	6	4	1	1	17
	計	7	5	7	30	10	10	12	81

表 3 希望する暮らし(地域)×必要なもの(複数回答可)

		希望する暮らしに必要なもの							計
		入居できるGH	生活しやすい住宅	希望する暮らしの練習場所	日常生活の介助や支援の充実	財産管理等の支援制度	交流の場や相談の場	周囲の障がい理解や配慮	
希望する暮らし	一人	32	66	50	85	80	63	133	509
	親等	62	80	127	209	142	124	301	1,045
	配偶者	33	71	74	231	83	130	234	856
	友達等	77	28	26	54	31	26	46	288
	計	204	245	277	579	336	343	714	2,698

表 4 希望する暮らし(地域)×相談相手

		相談相手									計
		家族	友だち	ヘルパーや施設職員	学校の先生や職場の人	相談機関や相談支援事業所	民生委員児童委員	医師看護師	その他	いない/わからない	
希望する暮らし	一人	123	44	34	8	17	22	23	58	44	373
	親等	328	26	28	13	8	14	28	69	70	584
	配偶者	405	58	16	10	11	48	21	73	87	729
	友達等	60	12	26	8	3	3	12	17	12	153
	計	916	140	104	39	39	87	84	217	213	1,839

表 5 希望する暮らし(地域)×日常生活の困りごと

		日常生活の困りごと										計
		収入が少ない	財産管理法的な手続	障がいの重度化	家族の高齢化	家族関係	近隣関係	相談の場がない	支援や介助の不足	住居や設備のバリアフリー	移動が不便	
希望する暮らし	一人	205	39	54	91	35	22	53	26	27	56	608
	親等	148	111	43	191	22	16	56	82	54	89	812
	配偶者	331	48	174	192	28	23	57	37	73	169	1,132
	友達等	54	45	17	41	11	5	17	19	7	25	241
	計	738	243	288	515	96	66	183	164	161	339	2,793

<分析結果>

- ・現在、入所/入院していると答えた人のうち約半数が「地域生活を希望している」と回答している(68人/155人)(表1)。
- ・地域生活のために必要なものは、「支援の充実」「周囲の理解」「制度の理解」「相談の場」の順に回答が多い(表2)。
- ・「周囲の理解」は、暮らしのあり方に関わらず、地域生活を希望する人が必要とするものの中で最も回答数が多かった(表3)。
- ・地域生活を希望する人が相談する相手は「家族」が最も多く「いない/わからない」と答えた人も3番目に多かった(表4)。
- ・一方で、地域生活を希望する人が相談する相手として「専門の相談機関や相談支援事業所」及び「学校の先生や職場の人」と答えた人は最も少なかった(表4)。
- ・地域生活を希望する人が日常生活での困りごととして最も回答が多かったのは「収入」、次いで「家族の高齢化」であった。また、「相談の場」は10項目中6番目に多い回答であった(表5)。